

村の林業の再生！ ～北相木村の挑戦～



山を整備するだけでなく木材を活用することが重要

「整備がされていない山が原因で村民が災害に遭わないか心配なんです」

井出高明村長の強い思いから、村の林業の再生が始まりました。

北相木のカラマツは、その風土のたまものか、年輪幅が狭くまっすぐであり、強度があるため重宝されています。こうした木材を活用することが村の産業振興の鍵を握っています。

しかし、小さな面積の森林所有者が多く、切り捨て間伐を行うことが主でした。それもできずに手入れがされていない森林では、根っこごと倒れそれが斜面の崩壊のきっかけになります。そこで現在、北相木村では次のようなシナリオで「産業」としての林業を行おうとしています。

- ① 手入れの有無や可能性、事業性の検討をする
- ② 森林の所有者の情報を整え、取りまとめしやすくする

③ 村役場に林業の知識のある専属の職員を配置し、整備の推進をする

カラマツは今引く手あまたです。特に直径18〜30センチメートル程度の木材は合板材に、細いものも杭材などに引き合いがあり、「佐久のカラマツ」は遠くは九州にまで出荷されているほど。

この数年で、市町村における森林の適切な管理の役割がさらに大きくなりました。この「育っていく宝」をいかに活用しつつ手入れしていくか、「本当の春」への岐路はすぐそこです。